

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②事業者情報

名称：	小学館アカデミーさいたまだっこ 保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	村田 敦子	定員(利用人数)：	44 名
所在地：	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町3-901-1 パークシティさいたま北ガーデンレジデンス 1階	TEL	048-660-1017

③評価実施期間

平成 30年 7月 1日(契約日)～平成 30年 10月 18日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

子どもが自発的に関われるような、子どもの発達に合わせた環境をつくることに注力している
・子どもの月齢差にも配慮し、家庭的な雰囲気の中で子どもが楽しいと感じられる環境、自分から進んで関われる環境を提供することで、その中で集中して遊び、生活習慣などが身につくようにしている。保護者のアンケートにも、「子どもの個性を重視」「アットホーム」「きめ細かな対応」などの意見が多数あがっており、園の思いが保護者にも伝わっていることが確認できる。小規模保育園だからこそその支援の継続を期待したい。

子どもの尊厳の尊重については高い評価を得ている

・一人ひとりの育ちを尊重し、気持ちに寄り添い受け止めながら保育し、保護者の要望を適宜把握することに努めている。子どもの表情や動きに注意し、様子を見ながら話を静かに聞いたり、個別に対応し受け止めながら信頼関係を築いている。保護者との日々の会話や連絡帳から、保護者の価値感や生活習慣を把握し、個別支援につなげている。今回行った利用者調査の、「園での様子や行事などに関する情報提供は充分か」「不満や要望は言いやすく実際に対応してくれるか」、「子育てに関する気がかりな点や悩みに気軽に相談に応じてくれるか」などの設問に関しては、いずれも高い満足度が得られていた。

◇特にコメントを要する点

アレルギー児対応の体制などの更なる取り組みも期待したい

・現在の献立は、全園児への給食の卵を除去している。卵アレルギー児については、この献立による給食提供により、卵アレルギーがある子どもでも安心して給食を喫食することができる環境にある。ただし、加工品や手作りおやつ以外の菓子類などにも卵などが使用されていることがあることなどを考慮すると、職員のアレルギー児への対応として、発作時の緊急対応・職員間の連携などの体制の確認や再考を望みたい。

子どもと職員が同じ給食を喫食できる中での保育も期待したい

・現在給食は、調理員の人数や調理室の大きさなどを考慮して、子どもだけが園の献立を喫食している。給食で同じ物を食べることで食材や献立について会話が交わされたり、好き嫌いや食欲などの話も自然と交わされる時間となる。それらのことを鑑みて、①幼児組 ②クラス担任のうちの1名 などの限定の条件を設けるなどの工夫を含めて、子どもたちと一緒に給食を職員が喫食する体制を整えることも期待したい。

保育室の環境作りに期待したい

・保育室は大きなワンルームを棚などで仕切り、0歳児・1歳児・2歳児・3～5歳児クラスとして使用している。棚以外にも、職員手作りの可動可能な仕切りなどを利用して、活動ごとに部屋を分けて利用するなどの工夫がみられる。ただし、子どもの玩具、教材、行事の際に使う備品、季節により使用する備品、などの多くが保育室の中に置かれている。子どもの安心安全な保育室の提供、1日の多くを過ごす保育室の落ち着いた環境作りなどの観点から保育室の改善を期待したい。

職員会議を定期的を開催し、園一丸となって事業計画の策定や推進に取り組まれない
 ・当該保育園は、園児24名（定員44名）、保育士16名（常勤・非常勤合わせて）、保育室はワンルームを間仕切りや衝立によって遮った小規模園であり、さいたま市の認定を受けたナーサリールームとして運営されている。園長以下全ての保育士が小規模園としての特長を活かした運営に取り組んでいる。園長からの指示指導や職員間のコミュニケーションは日常的な会話や昼打合せを中心に行なっており、少人数であることから適切になされていることがうかがえる。ただし、定例の職員会議は現在開催されておらず、事業計画の作成などは園一丸となってなされることが望まれる。

地域との連携を多角的に取り組んでいくことを目指している
 ・法人内の各園の園長が出席する園長会では国の子育て施策や業界動向に関する認識を深め、地域で開催されるナーサリールーム連絡会では地域の子育てニーズなどの情報を収集し、園運営に反映させることに取り組んでいる。また、園の機能や専門性を地域に還元することにも取り組んでいる。様々な媒体を用いて地域への情報提供に力を入れ、パネルシアターや読み聞かせ会（土曜日に開催）、その他救命救急の講習会などを開催している。ただし、参加者が限られていることを園では認識しており、テーマ、開催日や時間などを多角的に検討することを目指している。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回、第三者評価を受審し、保育園の現状や今後の課題を見直す良い機会となりました。良い評価をしていただいた「子ども主体の保育」を今後も継続しながら、利用者様にとっても地域の方にとってもより信頼される保育園となりますよう改善点に取り組んでいきたいと思っております。どうもありがとうございました。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり